

問 福知山津波災害地の陥没対策を

答 市と県で調査し対応する

山根 昇 議員

問 31年前の山津波災害の福知地すべり地で、陥没が起きている。早急な対策を求める。

土木部長 市でできることは、早急に実施し、県に調査を依頼している。

問 神戸地区の国道バイパスや曲里橋、堰の建設、改修。主要地方道養父穴粟線安積地内の拡幅、改良など早期着工を求めているがどうか。

土木部長 国・県に要望を続けています。市道川西線は路線測量に着手する。



国道29号・主要地方道
養父穴粟線交差点

問 市地域情報化計画は50億円超の事業費である。市民局ごとに対応し、市のお知らせ情報は携帯電話の有効活用を検討するなど事業費削減を計るべきである。

企画部長 光ファイバーを全戸に敷設し、地デジや市の情報提供を行いたい。携帯利用は検討したい。

問 大戦を「自衛のための戦争、アジア解放のための戦争だった」と描いたDVD「誇り」が学校現場に持ち込まれようとしている。誤った歴史観を教える内容であり、後援をしたり、学校で使用すべきでない。

教育長 内容をよく吟味し、対応したい。
さらに、地域公共交通対策や県の木材供給センターについて質した。

問 総合病院 安心して医療は受けられるのか

答 総合病院として維持していく

北川 清司 議員

問 いま正に、総合病院の医師不足は深刻である。12診療科のうち、4診療科が常勤医師不在である。特に整形外科において4月より非常勤(週2日)対応であり、診療・入院などやむなく制限されている状況から整形外科の救急患者も受け入れられない。市民、患者は大変困惑している。

医師不足は全国的に問題となつているが、この広大な穴粟、総合病院として機能させなければ地域の医療は確保出来ない。しかし医師不在では病院は機能しない、医師確保の状況を。

市長 県、大学病院、医師会等の協力のもとに努力しているが、県立病院も医師不足であり難しい。しかし広く情報をもとに確保につとめ、総合病院の機能を維持していく。

問 特に、救急患者の対応、対策はどう進め市民の安全を確保するのか。
医師確保に努力との説明であるが、待ちの体制では無理と考える。病院現場の実情も検証し、一時的な医師受け入れ体制でなく、経営体質、改善も含めた改革を目指すときではないか。

市長 市医師会の協力のもとに一次救急(軽症患者対応)施設を進めている。位置は消防本部の一角を予定。また、改善策についても検討をするなか病院側とも協議を重ねているが、長期的な医療体制の確立に努めたい。



総合病院内整形受付